

【主な記事】
・苦しいのは、
あなただけじゃない！
・供物は心臓
・化学×歴史
・たまごのとりこ。

苦しいのは、あなただけじゃない！

近年、組織における「心理的安全性」という考え方が広まりつつあります。心理的に安全なチームとは、「メンバー同士が健全に意見を戦わせ、生産的でよい仕事をするために力を注げるチーム」のことで、対人関係のリスクをとっても安全だと信じられる職場環境が大切だとされています。

私は、「読者が選ぶビジネス書グラ

災いを転じて

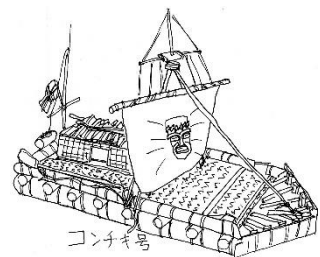
昨年の春、東京の飲食店は保障のないまま、コロナウィルス感染拡大防止への協力を要請されました。『シェフたちのコロナ禍』は、休業か時短か、テイクアウトはするのか、スタッフの雇用と給与はどうするのかなど、決断と行動の実例が三十四人分集まった本です。

登場シェフの中には、飲食業の先行き不透明さを「毎日が冒険」と表現した人もいました。「正解がわか

ンプリ2021」のマネジメント部門賞を受賞した『心理的安全性のつくりかた』でこの言葉を知ったのですが、こんなに「わくわく感」で読む手が止まらないビジネス書は初めて、というくらいの衝撃を受けました。一時、あまりにも会う人会う人におすすめていたので、「この人、よっぽど悩んでいるのかしら？」と心配させてしまっていたかもしれません。

「状況下では一般論は存在しません。ひとりひとりが異なった経路をたどり、店もそれぞれの経過地点へたどり着きます。」

多くのシェフたちが、自店と自店の顧客のことを考え、飲食店としての自店の存在理由を再考します。他店が別の判断をしても当然という態度、いいも悪いもない、といった様子が描かれています。簡単に答えのない問いの連続があり、試行錯誤やリトライは当たり前前に繰り返し、失敗は途中経過に過ぎないという現実がここにあります。



⑪

ただ、この「心理的安全性」、正しく理解できていないと「仲良しこよしのヌルい職場」や「やみくもに団結を求めるチーム」を生む危険性も。そこで抑えておきたい一冊が、「心理的安全性」の提唱者による解説書『恐れのない組織』です。『心理的安全性のつくりかた』で得た高揚感に対し、こちらではビシリと襟を正してくれているようで、より一層理解が深まりました。

そして、私がこの二冊を読んで得たものは、今の自分の仕事にヒントを与えてくれるかもしれない、という希望ともうひとつ。世界中、職種も役職も違えども、みんな同じことで悩んでいるのだなあ、という安心感なのでした。

⑫

エリック・カールさん

ありがとう

『ありえない！』は、『はらぺこあおむし』でおなじみのエリック・カールさんによる「ありえない！」を楽しむ絵本です。

まず表紙絵、バナナから

アヒルが飛び出すという現

実世界ではありえないもの

が描かれます。そして本を

開くとショー仕立てでペー

ジが進みます。「カンガルー

のおなかにいるのは？」「ね

こをひっぱっているのは？

は？」「燃料不足の時代どこ

までもいけるタクシーっ

て？」等々。

ナンセンス、ブラックジ

ョーク、ユーモラスな「あ

りえない！」場面の連続で、

様々な視点から物事を見る

楽しさが味わえます。「あり

えないことがあるからこの

よはたのいいんだぜ」とは

猫をひもで引っ張るネズミ



エリック・カール

の言葉、確かにその通りと感じます。子供は既成概念にとらわれない柔軟性があるので、この絵本を読んでも感じるのかなと気になります。

五月末、エリック・カールさんの訃報を知りました。さみしい気持ちになりましたが、本書はカラフルで楽しくなる絵が満載。ちよっとブラックな要素を含みつつも、色鮮やかな世界をたっぷりと楽しめる一冊です。

米・ポスト・モダン小説の最高峰、

七十六歳にして新境地開拓！

現代アメリカ文学を代表する作家であり、ノーベル文学賞候補者としてたびたび名前が挙がり、覆面作家にして、寡作ながら長大で難解な作家として知られるトマス・ピンチョン。作品発表時七十六歳の最新作が『ブリーディング・エッジ』です。

本作品は、911とディープ・ウェブ（通常の検索エンジンによつては収集されない情報）をテーマとしながら、元公認不正検査士のマキシーンがニューヨークの舞台に不穏なテロの予兆を追うという国際陰謀ミステリー小説です。毎度の多彩すぎる登場人物の数々、映画や音楽やファッションなどありとあらゆるサブカルチャーへの辛辣な描写の数々に、読者は圧倒されることでしょう。約七百頁の長大な作品ですが、やたらと熱量の高い会話が主体

となるため、サクサクと読み進めることができると思います。ネタバレは避けたいので、具体的なストーリーについての言及はしませんが、御年七十六歳でこのようなテーマや表現が可能なのは純粋に驚きでした。今年八十四歳だそうです、是非もう一作書き上げてほしいものです。

イギリス産メタミステリが日本上陸

「探偵小説の順列」という数学理論に基づいて書かれた七つの短編が作中作として内包されているという紛うことなきメタミステリがイギリスからやってきた。その名も『第八の探偵』。日本だと竹本健治や麻耶雄嵩あたりが講談社から出しそうな雰囲気のみステリが、イギリスで出版されたというから驚きである。物語は作家と編集者の二人が作品を一つずつ鑑賞しながら進行していく。

探偵小説に慣れ親しんだ者なら誰しもが「作中作」＝「信頼できない書き手」を連想するわけであるが、この物語もご多分に漏れず、どの作品にも僅かな違和感を覚えつつも、それが何かは明かさず、次に次の作品へ……。もちろん最終章では驚愕の事実が明らかになるのだ。作家と編集者の二人が探偵小説の分類について議論するあたりはフェル博士の密室講義を彷彿とさせ、まさにミステリマニアによって書かれたミス

テリマニアのためのミステリといえるだろう。

ところで、この本でもっとも圧巻だったのは巻末の千街晶による解説である。作中作をあつかった作品を羅列していくのだが、その数なんと三十五作品！これだけ紹介しておいて「枚挙に遑がない」と言っているのだから、博覧強記とはまさにこのことである。

供物は心臓

アステカ帝国がスペイン人に滅ぼされてからちょうど五百年の今年、アステカの神々への供物かのような小説が発表された。『テスカトリポカ』である。メキシコでの抗争に敗れ、再起をかけて日本での臓器販売ビジネスに乗り出す元麻薬王のバルミロと、バルミロの組織が支配していた町から逃げ出し日本に流れ着いたメキシコ女性から生まれたコシモ。二人が川崎で出会って話は加速していく。

暴力が暴力を呼び、血を血で洗うアンダーグラウンドの凄みが全編あふれ出ている。メキシコの陰惨な麻薬抗争も、ジャカルタの喧騒も、人身御供を求めるアステカの信仰世界も。舞台が川崎に移ってからは、平和な日本のすぐ裏にある絶対悪の怖さ。沢山の登場人物たちは魅力的ではあるが、壊れていて救いようがないワルばかり。彼らが、そのひとつの脆いところに足をすくわれていく様に、人の業の滑稽さを感じる。

『テスカトリポカ』は今年の山本周五郎賞・直木賞ダブル受賞作だ。作品の精密な描写と構成・壮大なスケール感によって他作品を圧倒したのだろう。



佐藤 究

大人のためのファンタジー

かつて旅した場所を再訪すると、思い出を懐かしむ気持ちとともに自分や周囲の変化に切なくなることはないだろうか。『猫の街から世界を夢見る』は、そういった変化に敏感になりつつある人には間違いなく「ささる」小説だ。

物語は「夢の国」と呼ばれる世界から始まる。猫の街ウルタールの大学女子カレッジの優等生で、理事の娘でもあるクラリーが「覚醒する世界」からきた男と駆け落ちし女子寮は大騒ぎに。若い頃に夢の国の冒険者だった数学教授のヴェリットは、大学の危機を救うため彼女を連れ戻す旅に出る。

この作品の主人公は少年でも少女でもなく五十代の女性である。ファンタジー小説としては異色の主人公が、足腰の痛みや呼吸の乱れと戦ったり、かつての恋人に会うときに見栄でドレスを新調したりする姿には応援というよりも愚痴のひとつもきいてあげたい、という共感の気持ちたちが沸き上がる。現実を受け止めた上で、経験を活かし着実に目的地へと向かう彼女は妙に爽快で、ファンタジーというジャンルに意外に上手くハマっている。変化を恐れる大人にこそ読んでほしい。

化学 × 歴史

歴史好きの人も、日本史は好きだけど、世界史となると何だか取っつきにくいという人は多いのではないかと思います。それぞれの地域のつながりが分かり辛く、国の形も大きく変わる。人物名や地名に馴染みがない。何より全体像を掴むのが難しい……。

そんな世界史も中学程度の化学の知識に焦点を絞って興味を持つことで見方が変わってきます。す。「世界史は化学でできている」では、そういった世界史にまつわる化学の数々が紹介されています。現代の暮らしに身近な物質、例えば「ガラス」の起源はいつで、誰がどのように発展させ、世界にどんな変化を与えたのか。古代から謎だった「燃える物質」の酸素はいつになつてから発見され、誰が名付けたのかなど。一つ一つの知識を積み重ねることで、世界各

地域の時代ごとの人々の暮らしや風景のイメージが掴めてきます。偉大な英雄や皇帝、革命家の勇ましいエピソードは登場しません。代わりに科学者の数奇な運命や、各国の歴史上の微笑ましい小話やユーモアを交えて紹介してあり、読み物として退屈することがありません。流行りのドラマの東大受験に役立つかは分かりませんが、理科と社会、化学と歴史はセットで興味を持つと大変面白いのだと気づかせてくれる、大人向けの良書だと思います。

⑤

名建築から見る

お姫様の生涯

普段歴史あるお城やお寺について考える時、武将や王様のエピソードを思い起こすことが多い。歴史の文献自体にお姫様に関する記述が少なく、かの有名なマリー・アントワネットでさえも資料はそれほど残っていない。

『お姫様と名建築』は、歴史の主役になれなかった世界各国のお姫様と、彼女たちが住んだお城や宮殿など名建築を紹介した画期的な歴史本。乙女心

をくすぐるイラストで建築やファッションにも触れることのできるアートブックとしても楽しめる。

さて、寺社仏閣は大好きな私が今までお城に興味を持てなかったのは、お姫様エピソードが少ないせいでしょうか？と思いつつ千姫と姫路城のページを読んでみたところ、6階の天守閣を目指した著者が登山並みに大変な目に遭い、千姫は天守閣を登ったことがないだろうという推測に



千姫

至ったところで、自分も城が苦手な理由はこれ（階段上りたくない）だった……。と思い出した。でも千姫お気に入りの西の丸には行ってみよう。お姫様視線で城を歩くのは新しい感覚かもしれない。著者ならではの毒っ気と、お姫様への情熱が詰まった本書で、ぜひあなたも「正しいお姫様」になるための第一歩を踏み出しましょう！

鬼や呪いが 流行る昨今です。

心の闇、精神の歪み、負の感情の爆発……。それらを表現する手法として、異形なるものたちは描かれてきた。『異形のものたち』は、そのような怪物たちを描いた絵画のを集めた書籍。『怖い絵』で有名な中野京子さんらしい切り口といえよう。夏のホラーとはいかないかもしれないが、独特の不気味さを味わえるので、ぜひご覧いただきたい。

まずは表紙に描かれるジョヴァンニ・セガンティーニ作「悪しき母たち」。一見すると上半身が女性、下半身が樹の怪物に見えるかもしれない。しかし、よく見ると違うことが分かる。また、

⑤

表紙に描かれていない部分には、この「悪しき母たち」というタイトルの真意が隠されているのだ。本書を読み進めるに従い、そういった驚きと、深淵なる不気味さに引き込まれる。怪物たちのあまりに官能的で熱のこもった表情だけでなく、動作や背景の陰に、そして描かれた空白や闇にこそ、画家の意図を読み取ることができる。描かれているのは、歪な形をした人間の感情や業そのものののだ。

今、世界は混迷を極めている。不安も恐怖も隣り合わせだ。だが、そんな中にも希望の光が見える。本書に描かれるのは、それら人の心の形だ。ぜひとも、お気に入りの「異形」を見つけて欲しい。もしかすると、あなたの不安や恐怖を解決する糸口になるかもしれない。

下を向いて歩こう

オオイヌノフグリ

主に春に咲く青紫色の小さな花の名前で。誰もが知っていると言っても過言でないほどの有名な花ですが、何も知らなかった私はこの花に出会ったことをきっかけに様々な草花を写真に撮っては調べるのが日課になりました。

道端の雑草や草花の図鑑はお客様からのお問い合わせも多く、書籍もたくさん出版されています。その中から今回ご紹介するのはSNSで人気の一日一種さんの草花図鑑。イラストで描かれているので特徴が際立ってわかりやすく、親しみやすさも感じます。図鑑としてももちろん、読んでも楽しい、オススメの一冊です。

さて明日はどんな花に出会えるのか、足元に注目しながら毎日の散歩を楽しもうと思います。

⑤

たまごのやいこ。

カップの上にたまごが座っている表紙を見ただけで引き込まれた。

ふしぎのくにのアリスのハンプティダンプティ風なのか、それともホテルの朝食に出てくるような半熟たまごなのか。タイトルの『たまごのはなし』とは何なのか。

手に取らずにはいられずに、引き寄せられるようにページをめくる。めくる手が止まらな

い。ある日、キッチンのたまごの一個が目覚めた。いつまで転が

話題のSFヤンキー漫画

『週刊少年マガジン』で連載中の『東京卍リベンジャーズ』は四月からアニメ放映中、七月には実写映画化と今年注目の一作だ。

何といってもヤンキー漫画にタイムリープの要素を組み合わせた作風が唯一無二の物となっており、先が読めない展開が楽しく、私も連載当初から追いかけてい

る。主人公の花垣武道は二六歳の冴えないフリーター。あることをきっかけに十二年前の中学時代にタイムリープできるようになり、現在を変えるために過去に戻り、東

京卍會(通称トーマン)という暴走族を探っていくというのが大筋だ。一卷目の頃の主人公を見ると、本当に何の取柄もなく、不良たちに殴られる描写がとにかく多い。この調子で大丈夫かと不安にな

ってくるが、中学時代の彼女が現代で亡くなることを回避するために、味方側の総長や敵側の総長など立場関係なく誰にも屈しないというガッツを見せてくれる。ある意味気合だけで最悪の未来を変えようとしており、そこが先の読めない面白さにつながって

いそうだ。ヤンキー漫画あるあると言って良さそうだが、奇抜な髪型にド派手な刺青、バイクやタバコも当たり前。中学生?となること間違いはないが、ある種ファンタジーのような物だと思えると気楽に楽しめそうだ。



キャンパーの間で話題沸騰の「ほりにし」をご存じでしょうか?和歌山県にあるアウトドアショップの店主・堀西さんという方が作った万能スパイスです。何にかけても美味しいと評判ですが、残念ながらスーパーなどでは販売しておらず、一部ネットやスポーツ用品店などに限っての販売とのことで、なかなかお目にかかれません。そんなレアなスパイスを手に入れた際には、併せてこの『アウトドアスパイスほりにしやみつつきレシピ』も手にしていただきたいと思います。パーベキュー芸人のたけだパーベキューさんが、「ほりにし」を使った様々なレシピを紹介している一冊で、牛肉や鶏肉にただ振りかけて焼くだけの最強のパーベキューレシピから、グラタンなど手の込んだ料理まで。活躍の場もキャンプ場からキッチンまでと幅広く使えること間違いのないと思います。

私自身、おうちキャンプやベランピングはまだまだ素人ですが、今年は、この「ほりにし」でベテランキャンパーを気取ろうと思っています。



【書誌情報】『エーコン漂流』(野田知佑/ネイチアエンタープライズ) 一二〇〇円

『エーコンのソロキャン』(エーコン/学研プラス) 一四〇〇円

27空前のアウトドアブームである。

カケオくんが熱心にBE-PALEを読んでいたのは高校から大学にかけてのこと。90年代初頭だ。

あれから30年。RVはSUVに取って代わり、オートキャンプ場もずいぶん進化したけれど、一番の変化はソロキャンの人気ぶりだろう。

野田知佑の本を読み返して、真の単独行に思いを馳せるカケオくんであった。

※価格は本体価格です。

